

## 「障害者対応のインドア パタンの指導に携わって」

廣光梅子（拜四小地区・6期目）

国立市にある東京都多摩障害者スポーツセンターの体育館で7月1日、障害者対応のインドアパタンの指導が行われました。

当日は男性が10人、女性が15人で、そのうち車椅子の人が3人でした。初めてインドアパタンを行う人ばかりでしたが、ルールを説明すると、「ポッチャー」に似ていると誰からとなく声が出ました。

ポッチャをやったことがある人が多かったせいか、ルールの理解も早かったので、まずはボールの感触を味わいながら投げる練習をしました。高く投げられない人が多かったので、転がり具合を確かめながらの練習でした。

いろいろな障害をもった人ばかりでしたが、ゲームを始めると、誰もが真剣で一投一投力が入っていました。投げることに「ワー、おしいー」「うまいー」など相手を讃えたり、味方と作

戦を練ったりしながら、とても楽しんでいました。

障害者が自主的、かつ積極的にスポーツを行うことができるよう、2011年8月にスポーツ基本法が施行されました。この日もここ多摩障害者スポーツセンターでは、いろいろな障害を持った人が、いろいろな器具を使ってトレーニングに励んでいます。どの人の顔も明るく、一生懸命取り組んでいる姿に心を打たれました。



## 「スポーツ推進委員OB・AL会」

岡川さえ子（拜島一小地区・3期目）

6月14日午後3時から、スポーツ推進委員OB・AL会が行われました。同会は、スポーツ推進委員のOBと現役、歴代の事務局担当者が対象で、年2回行われています。

今回は平成26年の総会と二ユースポーツ研修が行われました。はじめに恒例の昭島体操を行い、その後、ラジオ体操も行いました。じんわりと汗をかいた後、片足で何秒立っていられるかを計りました。片足で立つという単純な動作ですが、思っていたより難しく、先輩たちに負けないよう真剣になってしまいました。

その後、ラインクップをはじめ、キャッチザスティック、吹き矢を行いました。ラインクップは、室内で小さな子どもがやっても危なくないよう、発泡スチロールの筒を使って作った物を使用しました。

ライン状に並んだ的を筒状の棒を使って手前から順番に倒して得点を競うものです。しかし、

順番に倒すといってもこれがなかなか難しく、1番手前より先に2番目とか、3番目が倒れてしまうことが多く、現役はもちろん、先輩たちもかなり苦戦していました。

勝負となると、つい熱くなってしまう人たちが多いものですが、和気あいあいと楽しい時間を過ごすことができました。今後もこのような研修を通し、先輩たちと共に過ごす機会が持たれればと思います。



（ラインクップ）